

## 活動報告

### 竜北西部小学校 宿泊通学 1日目

9月18日から20日にかけて、里地屋敷において、竜北西部小学校の宿泊通学を行いました。今年の宿泊通学も最後ということで、スタッフ・リーダー共に気合を入れてミーティングを済ませ、到着を待っていました。坂道から元気な声で「こんにちは〜。」という声が聞こえ、今年の3校の子どもたちはみんな元気がいいように感じました。



▲使い方に注意して・・・よいしょ!!

活動着に着替えて調理班・お風呂班・ご飯班として活動を行います。説明をしっかりと聞き、ナタを使ううえで、危険な箇所の話聞いたときには「うわあ〜。」「痛そう〜。」などといった感想を聞くことができました。

それからはお互いに注意し、作業を進め、自分の班の仕事が終わってしまっても、他の班が終わるまで手伝い、自分たちで全体の歩みをそえながら作業を行っていました。

### 竜北西部小学校 宿泊通学 2日目

2日目の野外活動は里地屋敷活動で、子どもたちの協調性や自立性、自主性を高めるため、ロープワークの後に、スパイダーネットという遊びも行いました。これは、柱2本にロープを縦横無尽に張り巡らせ、ロープに触れないように協力して、全員を反対側に移動させるという遊びで、非常に白熱するプログラムとなりました。



▲早く足を持って〜

体と頭を朝から使った子どもたちは学校から帰って来ると、眠気が出ていたようにも思えましたが、自分たちの与えられた作業をきちんとこなし、終わっていない班の手伝いまで、しっかりとできる子どもたちに感動を覚えました。

今年の宿泊通学も無事に病気やけが、事故なども無く終わることができました。これも地元住民の人たちの協力や外部講師・高校生リーダーの協力があったからこそだと思います。この場を借りてお礼を申し上げますと同時に、これからもますます精進し、環境教育を広めていきたいと思います。

## イベント情報

### 米粉の使い方教室 ～米粉の生地デザ作り～

焼き上がったピザは小麦粉で作ったズッシリとしたピザではなく、モチモチフワフワした柔らかいピザ生地になります。おなかにたまるイメージではないように思えますが、そんなことはありません。普段とは一味違った生地のピザを立神峡公園で作ってみませんか?

- ◆日時：11月16日(土) 10時～12時
- ◆場所：立神峡公園炊事棟
- ◆定員：5組
- ◆参加費：2,000円

### 第13回 里山フェスタ

今年も毎年恒例の里山フェスタを開催いたします。今年も普段の管理組作業の一端を体験できます。そのほかにも発電自転車やペレットストーブ(木のくずを圧縮し、小さな棒状にして燃料とするストーブ)、飲食・物販販売のブース、環境保全団体による体験活動なども行います。そのほかの催し物もありますので、皆さまお誘いあわせのうえ、ぜひ、ご来園ください。

- ◆日時：11月24日(日) 10時～15時
- ◆場所：立神峡公園内
- ◆参加費：一部有料



お問い合わせ・お申し込み先  
立神峡公園管理組合 ☎62-1543 tategamikyou@yahoo.co.jp (8:30~17:30 火曜定休日)

# 町民文芸

## 短歌

- まほろばなふるさと氷川と詩いしが  
せせらぐ瀬音寝息に満ため  
法道寺 本田 花風
- 大柄の雌の飛蝗が雄を背に  
ぴよんと跳ねては着地に転ぶ  
北野津 宮本 末秋
- 日盛りは眞夏とまがう暑さなり  
ゆうべは涼風夕日の赤し  
高塚 桑原ゆき代
- 過疎の地に今年も秋は巡りきて  
淋し野道に彼岸花咲く  
吉本 高橋 澄子
- 七年を夢見て暮らそう東京の  
空に五輪の花咲くまでは  
西野津 古崎スエノ
- 民で守りし氏神に  
納めし相撲歓声ありて  
南鹿野 尾崎 京子
- 加害者の家族世間を憚かりて  
息を潜める是も被害者  
吉本 橋村 正之

## 俳句

- 秋風の茂みの中に二三本  
鮮やか揺るる秋桜かな  
西野津 古崎 栄子
- 連休が名月十五夜かさなりて  
帰れし孫と月見楽しむ  
高塚 竹中 力
- みちのくの汚染の水をいかにせむ  
諸人願う道は開けず  
桜ヶ丘 宮崎敬四郎
- 名月や兎居ずとも夢がある  
北野津 宮本 末秋
- 日の光こきむらさきの秋の茄子  
高塚 桑原ゆき代
- 根室より送られ未たるサンマ焼く  
吉本 高橋 澄子
- 転作も離農も有りて過疎の秋  
西野津 古崎スエノ
- 秋風の連れきし雨の冷たりき  
南鹿野 尾崎 京子
- 秋深し旬の味覚の舌ならす  
西野津 古崎 栄子
- 烏瓜水汲みの人二三  
町 香山菊童子
- 山の端の今宵の月の大きかり  
町 香山セツ子
- よくもまあ八十路を越えて月見酒  
高塚 竹中 力

## 辛い職務

吉本 橋村 正之

「絞首刑」なる本で知る死刑執行指示有らば拒否許されぬ刑務官苦悩の作業を遂行す執行位置に震えつ、目隠しされて立たされた首にロープを掛けるのは言葉に出来ぬ嫌なもの並ぶ三個のボタンだが執行ボタンは一個のみそれが自分で無い事を念じながら指掛ける落下して来た執行体ブレ防ぐため抱き止めたあの感触が今もなお記憶に残り消えはせぬ職務とは言え人間の命奪った此の苦渋妻にも言えず胸の奥深く仕舞って生きるのか

## 私説【後編】

法道寺 本田 花風

前年の受賞者は、朝井リョウ、23歳の最年少受賞した。鋭いまなざし若者世界を描いた「桐島、部活やめるってよ」。デビュー後、大賞で友達になった女子から「同じ高校にあんたがいなくてよかった」、高校の同級生からは「こんな風にみていたなんてひどい」と責められた。鋭いまなざしがここにもあって「ホテルローヤル」は桜木の人生を投影しているのだろうか。文士の多くが自己の生きざまを生々しく書いた様子が、今年発行された「日本文壇史全十巻」は男女の生きざまを赤裸々且つ綿密に記しているが、文豪と呼ばれた人たちの生きざまには、ただ驚きであった。作品を読まず作品を語るのほおごがましいが、史実を知ることほもつと面白く、次のページは「川端康成」と「三島由紀夫」、どんな裏話が出てくるか文壇史の面白いところである。

## 【お詫びと訂正】

先月号で高橋澄子さん、香山セツ子さんの作品に誤りがありました。大変ご迷惑をお掛けしました。深くお詫びし訂正いたします。  
正 農人の貴き汗の結晶の  
稲穂に台風の迂回祈らむ  
吉本 高橋 澄子  
月昇る五輪をめざし生きゆかむ  
町 香山セツ子